

## 看護師養成部会（第４回） 会議録

日 時：平成 24 年 7 月 31 日 午後 1 時 30 分開会

出席委員：上田委員、川崎委員、久保出委員、西委員、福田委員（50 音順）

### <会議の概要>

#### ○基本計画策定の進捗状況報告

事務局           私のほうから基本計画の原案でございますが、概要版、こういうカラーのものが、1 枚ものがあると思いますけども、これの現在の状況について、ご説明申し上げます。7 月 17 日に計画の原案は、建設部会におきまして作成されたところでございます。今月 20 日から、来月の 8 月 6 日まで 18 日間、市民から広く意見募集をするということで、現在パブリックコメント、期間に入っております。ただこれはやはり、市民に周知をしたいということで、加賀市では広報かがという市が発行している広報誌があるんですが、この中に全戸折り込みで配布を今回させていただいております。その後、8 月 10 日に、この部会の親委員会でもあります推進委員会におきまして、この原案を協議、審議をいただき、市長のほうに建議をするというふうな段取りになっております。これをもとに 9 月の議会におきまして、建設に関わる予算等について議会に上程をし、ご承認をいただければ、10 月以降、業者の選考というかたちで募集をしてまいりたい。年度内に業者の決定と契約をしていきたいというふうになります。次年度以降につきましては、基本設計、実施設計、そして本格的な工事の着手ということに入っていくというふうな予定でございます。以上でございます。

#### ○議事

##### 議題 1 看護師確保にかかる施策について

福田部会長       これまで 3 回の会議が行われたわけでございます。ここで、看護師養成所の統合新病院への併設問題に関して議論してまいりましたが、大部分の償還が終了するまで、残債が終了するまでを目途として、加賀看護学校を現在地で継続運営するという部会報告をまとめられたところでございます。報告の中では、具体的な運用につきましては、今後の検討課題としておりましたが、これからは運用の話に入っていくことになろうかと思います。

それでは、議題 1 の看護師確保にかかる施策の概要につきまして、説明をお願いいたします。

事務局説明 **資料 1** 看護師確保にかかる施策について

**参考 1** 看護師等の「雇用の質」の向上に関する

省内プロジェクトチーム報告書（概要）

福田部会長      なかなか難しいテーマの課題をいただいたと思うんですけども、厚生労働省のほうから、今ほど説明のカラーのポンチ絵がありますけれども、これが今までの看護師養成部会で出ました、看護師確保のための新たな施策ということで、それに合わせて、3つの種類のものをある程度仕分けをして書いていただいたということだと思うんですけども、まず、議論の進め方といたしまして、やはり1つ1つ議論していくのはなかなか大変だろうと思うので、全体として順不同で別に構いませんので、先生方のお気づきになられたこととか、問題点とか、あるいは厚生労働省のプロジェクトチームの内容に沿った上で、加賀市としては、何をどのようにまとめていくのかということはこのひな型に沿って議論していただけたらと思います。まず、上田先生のほうから、いかがでしょうか。

上田委員      ひな型を見せていただきましたけども、優秀な看護師あるいは職員をつくるには、やはりハードな面とソフトな面と両方から、対策を考えていく必要があると思います。ここに書かれているものは、わりとハードな面が多いんじゃないかなと自分の印象ですが思います。いろんな交流とか、自分たちで職場を作り上げるとか、仲良くやっ払いこうとか、目標を持って何か1つ成し遂げるとか、そういうことも大事ではないかなと思います。別に新病院ができてからではないですけども。今の福田先生の言われた質問の答えになったかは分かりませんが。

福田部会長      久保出委員、いかがですか。

久保出委員      私はまだ学校の立場なので、ちょっとずれてるのかもしれませんが、雇用の質の向上は喫緊の問題であるということが、厚労省のほうも提示してある通り、それが一番の課題かなと思います。私は学校の立場で学生を育てて、臨床側へ看護師を送り出す立場として、学生の言葉で言いますと、働きやすい職場はどこなのかということが絶えず出てきます。その働きやすい職場は、一体どのような形で、どう表現すればいいのかということは曖昧なんですけども、「働きやすい職場はどこ。」「そういう病院を紹介してください。」というのが学生の一番の思いです。そこの中に入って行って、そこで問題はなく、いろんな方に支援を受けながら、一人前の看護師になりたいという願いがたくさんあると思いますので、まず、働きやすい職場を考えていくのが必要かなと思います。そのためにも質を上げる場合に、やはりきちんとした数の充足。ある程度余裕のある人員確保というものが一番最初に上

がってきて、それができてからこそ、質がさらに向上するのではないかなと思います。そのためにも、ある程度の福利厚生面の充実を雇用時に表明していくということも非常に大事だと思いますし、それができるような体制づくりというのが、ひょっとして病院に求められるのではないかなと思います。

福田部会長      看護師養成の段階、要するに学校にある段階と、学校を卒業して職場に入った段階と、これはやはり2つに分けて議論する必要があるのではないかなというふうに思われます。できたらこの2つのポイントを分けた上で、ご意見を考えたらと思うんですが。川崎先生、いかがですか。

川崎委員      私のほうは病院なので、ほかの病院の看護師長さんたちから発達障がいのある看護師の扱いが難しいという話をよく聞きます。そういった看護師達は直接看護業務というのはしていないのですが、一応看護師免許を持っていますので数の上では看護師としてカウントします。そのへんがなかなか難しいところかなと思います。実習では点数が取れても、実践の中ではどう評価していくか。実際、就職で面接と試験だけでは、とてもそれを受ける側としたら見抜くことは無理なので、学校からの情報がないとなかなか難しいのかなとは思いました。そのへんの情報公開をもうちょっとしっかりしてほしいというのが率直な意見です。受け手側では、先ほど久保出先生から言われた働きやすい職場づくりというのは、本当に重要な問題で、これから2025年問題も含めて、少子高齢化、多死の時代を迎えている中で、ご高齢の方が持っているというのは慢性疾患。それに対して老化に伴う日常生活援助の低下ということで、看護師の役割というのは、本当に多岐にわたると思うんです。そこで今、診療報酬上言われている数だけではとても無理かなと。だから診療報酬上の最低限の数は、確保していただかなきゃいけないんですけども、それ以上にそういうところは、認めてほしいというのが正直な思いです。その上でやはり質って、研修に出してるのは当然、認定看護師もそうですし、新人研修も外に行って研修もしなきゃいけないですし、保健師助産師看護師法も改正になりまして、自己研鑽の義務というのが追加されましたので、そのへんを加味した上で出ないと。その働きやすい職場というのは、ただ結婚とか育児、介護の両立だけではなくて、質の向上にはつながらないかなと。それをハード面で、きちんとした予算取りをしていただきたいなと思います。

福田部会長      いくつかの今、話題が出たと思うんですけども、まず発達障がいの人が多く増えてきたということで、そういう方に対するケアは、実際にはどう行われてるんでしょうか。

川崎委員      1年目においては何回か面接をして、患者さんの安全の確保ができないようであれば、診療介助をせずにその方ができる仕事がある部署で仕事をする

ような形をとっているようです。

福田部会長

今おっしゃったことは、この3つにカテゴライズすると、職場づくりの中で、いろんな労務管理というところに当たるのだらうと思いますが、発達障がいだけではなくて、先ほどから話題になっております、妊娠、出産というようなことも関わってくるわけですし、それからほかの精神的な障がい、あるいは身体的な障がい。いろんなものがあって看護師さんの中でも起こってくるわけですから、そういう時にどう対処していく体制を作るのかということだろうと思うんです。だから、職場の中にそういうコンサルテーションができる専門家を置くなり、そういうための新しい職場の変更を可能にするシステムの確立とか、いろんなことが考えられると思うので、今、川崎委員からいただいた内容、特に発達障がいというふうに代表される名前でおっしゃいましたが、いずれにしても、それは職場づくりにおける人事管理をどうするかと。そういう体制をどう整備していくかということだろうと思われます。もう1つハード的な面というふうに言われましたが、これは例えば保育園とか、そういう子育てのための支援設備ということは、先ほどにも、職場づくりがあげっておりますけども、ほかにハード的なということで、お考えになっていることはどういうことでしょうか。

川崎委員

先ほどありましたハード的なものは、院内保育施設の設置になっているので、これ、院内保育園ですね。

福田部会長

院内保育園ですね。

川崎委員

できれば病児病後児ということは、ちょっとここにははっきり分からないんですが、やはり熱が出て保育園に行けない方、山中ではそういう方のための病児病後児をやっているものですから、それで看護職員が休まないというところがありますので、それを一緒に考えていただきたいなということと、看護師がキャリアアップするための教育環境をまとめて、予算面で整えてほしいということです。

福田部会長

それはこの3つにカテゴライズすると、人づくりの中に入りますね。いろんな意味での初心者、卒業して間もない看護師をはじめとして、いろんな意味で、スキルアップしていく段階の教育的なシステムを考慮してほしいということだと思うんです。それから、一番最初におっしゃいました人数の点ですね。人数の点は極めて重要でして、第1回目の時にも申し上げたと思うんですけども、20～30年すると少子高齢化が、特に高齢化が非常にドラスティックに進んで、75歳以上の高齢者が20数パーセントにのぼるという時代が、もうすぐそこまで来ているということになりますと、当然、急性期の疾病を扱うこの加賀市民病院で、そういう高齢者を全部抱えて入院させるというようなことは不可能になってまいりますから、市全体の医療をちゃん

と滞りなく進めるためには、自宅介護、在宅医療ということがどうしても不可欠になってくる。そうするとこれは2つの面が必要になってきまして、川崎先生のおっしゃった、看護師の質的および量的な必要性の増大ということが1点。2点目は、医療全体に関わる問題で、総合医、あるいは家庭医の養成、あるいはその補充分。当然、加賀市民病院には、養成機関としての医師養成はないわけですから、家庭医を養成している、あるいは総合医、臨床医を養成している大学からの人的サプライということが重要になってくると思うんです。それプラス、先ほどのネットワークづくりにも関係してくる問題でして、ぜひとも加賀市の中で、医師会あるいは保健福祉担当課ですか、こういう課と力を合わせて、特に加賀市民病院が中心になりまして、在宅医療をどうしていくのか。在宅医療ネットワークづくりということに関するワーキング等を作っていただいて、これを専門的に議論をしていただく必要があろうかと思います。その中において、今、川崎委員が出していただいたような看護師の質的、量的な不足が必ず生じてくると、そういうものをどうやって補充していくのかという問題。これは重要な問題として取り上げざるを得ないというふうに思われます。西委員は、いかがでしょうか。

西委員

まずは看護師を養成することの効果を言いますと、受ける側からすると、やはり質のいい看護師を欲しいと思います。基礎教育をしっかりとした学生をつくってほしいなということと、川崎さんもおっしゃられましたが、発達障がいではなくて打たれ弱い人間というか、そういう若い人たちがかなり増えてきています。入ってきてすぐ辞めたりとか、辞めたいとか。ちょっと何か言うとしょげてしまって、もうこんなところ嫌だわというような方も結構いるので、そのへんの教育も基礎のところ、きちんとしていただけたらうれしいかなと思います。あとはやはり新人が入ってきた時に、離職のことを考えると、うわべでは医療事故とかなんとかって言いますが、リアリティーショックが一番大きいのではないかなと思います。人間関係もそうなんです、それは実習を受ける側もそうですけど、看護学校側も今の現場の状況とかっていうものを病院との連携を取りつつ、学生に情報提供ができればいいのかなと思います。

福田部会長

今、西委員の言っていたのは人材育成。とりわけ看護学校における人材育成のあり方という問題で、提起していただいたと思うんですが、1つに人づくりということになるのかと思うんですけれども、前にもちょっと話題が出ましたが、少子化が進んでいる中において、当然受験生、これは看護学校だけではなくて、高等教育全般に言えることですが、受験生、あるいは入学してくる人間の質的な変化が、最近、著明になってきている。打たれ弱いというふうに表現なさいましたけど、表向きにアクティブではない

といえますか、どちらかという、引込み思案の生徒さんが非常に増えてきている。あるいは我慢強くない、打たれ強くないという人たちが増えてきているというのは、一般的に言われていることで、多分事実だろうと思うんです。要するに、多様化してくる受験生の中で、どのように看護学科の受験制度を持っていくかという受験制度の問題。それから、入ってからの初年次教育を含めて早期の教育のあり方。あるいは全人的な教育のあり方を看護学校としてどのように構築していくか。これは専門のことだけを教えるということだけではなくて、人間としての人間力を養っていくための一般教養のあり方ということも問われてくることでありましょう。したがって、人づくりの中には、先ほども言いましたように、看護学校における人づくりのあり方。それから看護学校を卒業して、看護師さんになられた初めの一步を踏み出す時以降の教育のあり方。これを分けて考えざるを得ないというふうに思うんですが、特に、看護学校における教育のあり方。今、西委員から問われたことに対して、久保出委員のほうから何か意見ございますか。

久保出委員

西看護部長が言われる通りだと思いますし、私たちもぜひそれを実行したいなと思っております。やはり教育をしていく以前の問題で、どれだけ優秀な生徒、高校の卒業生に加賀看護学校を選んで来てもらえるかというのも、大きなハードルになるかと思います。その段階で、選択できる状況を作れる学校でありたいなと思っております。そのためには、学校のレベルアップというか、学校の質の向上というか、学校の世間体の良さ。立地条件とかそれから教育内容のあり方とか、教育方法の進め方がほかの学校よりも何らかのかたちで、優れているというものを表面に出すことによって、より多くの学生に来てもらえる、選んでもらえる学校になるんじゃないかと思う。その選んでもらった中から、さらに少しでも人間的な力を持ってもらう。あるいは人間として成長し、さらに専門職として、技術を学ぼうとする姿勢、物事を学ぼうとする姿勢を身につけて、臨床に出てもらえるということを目指してやっております。確かに、今の学生というのは、ゆとり教育の時代に育ってきた学生たちで、看護学校に入って年間1千時間余りの授業がくると、本当にパニックになるというか、勉強が滞りなくできない状況を作っている。その学生自身の中で、物事を整理して順に進めていく力がない状況になりますので、それを今の状態では、丁寧に1つずつ順番、階段と一緒に手を引いて歩んでいくようなやり方を行っていますが、それを一緒にやっていける学生が入ってくれば、応援というか指導のやり方というのも功を奏すると思います。幸いなことにうちの学校も去年、一昨年と学生を選べる状況ができてきています。何年か前は、受験生すべてが学校に入るという状況でしたが、昨年度も選んで、選んだ中で学生を教育することができるという状況にはなっ

てきてますので、そういう状況がこれからも続いてもらえれば、より良い教育というか、少しでも素質のある人たちに対する教育ができればいいなと願っております。

福田部会長      いい学生を集めるという中に、一番最初の時に議論をしたと思うんですが、その時に奨学金のあり方という話題が出てきて、これを市長さんがおられて、その時には意思は伝わっておるだろうと思うんですが、学校のほうとして奨学金の額の問題と、それから人数の問題。どの程度をお考えになっておられますか。

久保出委員      例年ですと、3分の1程度の学生が何らかの奨学金を受けております。希望の額はというと、大体は授業料プラス諸経費を含めて5万円。今、加賀看護学校の場合は1ヶ月の授業料が4万円ですので、それを超える額を希望する学生が多いように思います。

福田部会長      そうすると、あとの3分の2は奨学金はもらってない。

久保出委員      そうです。

福田部会長      その時も問題で出たんですが、奨学金は、例えば5年間は加賀市内の病院に勤めるということをタスクとしまして、新しい奨学金を足してもらおうとしましたら、何人ぐらいまで、それは望ましいと思われませんか。

久保出委員      5年間だと、ひょっとしてゼロだと。今、石川県の場合は、月額で3万2千円いただいて、200床以下の病院で働けば返済不要です。

福田部会長      何年働くの。

久保出委員      就職さえすれば、返還なしです。

福田部会長      働く期限の制限がないわけですか。

久保出委員      はい。大きな額を出しているところだと、その分の返還はありますが、5万以上というかたちが多いです。月5万以上だと、3年もらえば、3年間働く。2年間もらえば、2年間働くという状況です。

福田部会長      なるほど。5年はちょっと長過ぎますか。

久保出委員      長過ぎると思います。せめて3年にしてください。

福田部会長      その3年間は、少なくとも加賀市内の病院に勤務することを条件にするということですね。

久保出委員      そうです。

福田部会長      これは行政のほうの問題に関わってくるんですが、行政のほうとしてはどうですか。今のところ、何か進展はございましたでしょうか。

事務局      加賀市教育委員会において、いくつかの奨学金の制度がございます。そのところで、看護学校に対する奨学金のルールというものを教育委員会のほうとして、たたき台というものがあると考えていただきたいと。それは金額の問題であり、また、どれだけの期間を対応するのか。そして、今、具体的

にお話がありましたが、加賀市の医療機関に何年勤めたら返済はしなくて良いとか。こういったものの調整を現在させていただいております。具体的に、例えば来年の4月から実施をするのか。それとも、統合新病院の時まで少し時間がかかるのかということも出ておりましたけれども、市長の指示からは、やはり1年でも早く出すようにということで、来年の春を目途に奨学金の制度というものが、現在、鋭意検討中でございます。

福田部会長      そのようにすぐ対応していただきまして、どうもありがとうございます。この部会の強い意志も伝わっておるかと思うと、うれしゅうございます。そういう意味で、何になるか、ちょっとまだ今検討中ということで、いろんな条件とか、対応期間とか、あるいは対応人数とかというようなことを今、議論していただいているということなので、もしご希望があれば、ここで学校のほうからの希望として、せつかく行政の方が見えられておられますので、言っておかれたほうがいいんじゃないでしょうか。

久保出委員      では、お言葉に甘えまして。最低5万程度いただきたいなと思います。もう1つ贅沢を言いますと、入学金10万も支援していただけると非常にうれしいです。以上です。

福田部会長      人数は。できれば全員。

久保出委員      できれば全員。いや、加賀市に残る人だけでいいと思うので。

福田部会長      加賀市に残る人だけで、いいということですね。

久保出委員      大体半数程度。加賀市として何人ぐらいが必要なのかというのが、その年度によって変わるかなと思うので、それに応じた人数でいいのではないかと思います。

福田部会長      できるだけ加賀市に残ってくれる看護師さんを多くするためにも、今の施策というのは、1つは役に立つのではないかと。それから、優秀な人間がお金がないから進めないという者に対して支援するということで、受けたいという人間が多分、増えてくれるだろうという見込みをもっての話ですから、両方にこれはかかるんじゃないでしょうかね。加賀に残ってくれる学生さん。それから加賀に入ってくれる学生さん。両方の増加につながってくればというふうに思われます。看護師さんに接しておられる上田先生のほうは、いかがでしょうか。

上田委員      奨学金とかそういうところは、僕は分からんですけども。ここに書かれている職場づくり、人づくり、ネットワークづくりとか。非常に大切なことなんですけども、僕自身が実際に経験しながら、自分の感で言います。先ほども人づくりとか、それから打たれてもくじけないとかっていう言葉が出ました。どういうことをしたらビリでもトップになれるか。それから、初めは加賀市がそう好きでもなかったんだけど、好きになっていた。この学校、こ



の病院でやるんだぞというような気持ちを作るとというのが非常に大事なので。僕自身なんですけども、1つ言われたのは、勉強を非常に一生懸命にやっていると、それから学会発表とか。あるいは医師会のほうでも中心的な存在になって、頑張っている先生に聞いたんです。「何で先生そんなにバイタリティーあるんだ。」と言ったら、何を言われたかといいますと「まず先生、好きなことを自分でやってみろ。1つ好きなことをやって、それがうまくいったら自分で企画してやってみて、きつとまた次もやりたくなくてやりますよ。」と言われた。これ非常に大切なことだと思う。勉強も、それからどんなことも同じです。自分が好きなことをやって、達成感を味わう。皆が協力してくれると。これがあるときつと病院も好きになるし、職場も好きになる、加賀市も好きになると思います。それからもう1つは、勉強だけでは決してないんです。やはり人脈づくり。それから人づくり。石川県の医師会の先生が加賀市のほうに来られて、いろいろ質問して聞いたんですが、なぜ聞いたかという、加賀市は医師の支援基地でありまして、「どうしたら医者がもっと来てくれるのか。日本医師会としてはどういうふうに考えてるのか。」ということ一度聞いたことあるんです。それに対する直接の答えというのが、「それは考えてます。」と言われたんですけども、今、医学部教育で非常に重要視しているのは、リベラルアーツと言いましたが、情操教育が非常に大事ということと言われる。それは結局は人づくりであり、ネットワークづくりになっていくと思います。チームワークを作ってやっていくとか、それから少々辛いことがあってもくじけないぞというようなのは、この2つの柱があったら、非常にうまいことやっていけるのではないかなというのが、今僕が思っていることです。

福田部会長

どうもありがとうございました。確かにそういういろんな人づくりというのは、上田委員もさっきの話でおっしゃったように、リベラルアーツをカリキュラムの中に組み込んでいくということも、1つの方法であろうというふうに思います。今大学のほうでも、リベラルアーツをやっている大学が少なく、全部が専門化してしまっていて、本当に人間力を養うような教養教育をなかなかやれないと。特に看護学校の場合も、国家試験を通らなきゃならないというのが前にありますから、多分、教養教育を十分にやっていく時間というものの制約が大きくなって、ないんだろうというふうに思われます。しかしながら、そういう時にも誰か著名な人間を連れて来て講演してもらったり、いろんな工夫というのはあり得るだろうと思うんです。だからそういうことをやる。もう1つは、これも前にも出たと思うんですが、動機づけをやるために、いわゆるアーリーエクスポージャーということで、もうやっておられるというふうにお聞きしたんですが、学生のうちから病院のアルバイトとし

て、ある一定の時間給を払いながら、学生のほうとしては、看護師さんと一緒になって患者さんのお世話にあたる。片方は実習しておるみたいなものもあると同時に、自分が第一線の雰囲気に触れながら、しかもアルバイトできるということで、これは、一石二鳥にも三鳥にもなるのではないかというのがあると思うんです。こういうことに関しては、どうでしょうか。西先生。

西委員       今うちの病院も看護学生2人、バイトに来ていただけてます。条件というのはおかしいですけども、いずれうちの病院に入ってくれるという思いの方が来てくださってます。免許がないので、いわゆる補助者としてのバイトになります。ですけれども、やはり自分たちの勉強になるという言葉は聞かれていますし、この夏休みにもう1人、バイトに入る方というのはいます。

福田部会長       西委員の病院に残る人だけじゃなくて、これは広く全体に面倒を見ていただけるとありがたいんです。

西委員       そうですね。実は、ほかの学校の学生も去年も今年も1人、バイトに来ます。本当はうちに入っていたきたいんですけれども、その子は来る気はないそうですが、バイトには来ます。

福田部会長       確かに、そういう動機づけにはなりますよね。川崎委員は今の件について、いかがですか。

川崎委員       いい考えだと思います。国立山中病院時代も夏休み中はアルバイトあったと思うんですが、私も学生時代、病院でアルバイトしていました。指導される看護師ではなくて、看護師像が描けたようなアルバイトだったので、自分自身はとてもプラスになったなと思います。これはいいかなと思いますし、うちも検討してみたいなと思いました。

福田部会長       ぜひ、加賀市民病院のほうでも、何らかのシステムチックな体制を作っていただいて、加賀看護学校と連携して、学生のうちから実際にアーリーエクスポージャーで、実体験ができるという喜びを与えてあげてほしい。その喜びを上田委員がおっしゃったみたいに、本来のやる気になっていくということに、つながっていく可能性が随分高いんじゃないかなと思います。他にどうでしょう。この3つの職場づくり、人づくり、ネットワークづくりで、今まで、それぞれに議論していただいた中で、こういうことが抜けているのではないか、こういうことを言ったはずだけでも、ここにはあがってないというようなことがありましたら、ぜひ、あげてほしいんですが。上田先生、どうぞ。

上田委員       加賀看護学校をこの前見てきました。久保出さんにお話ししたんですけども、クラブ活動とか、実際はない。それで先ほどのお話の続きになりますけれども、クラブ活動なんかも、ぜひやったらどうかという話をしたんです。どんなクラブ活動でもいいんでしょうけども、うちの家内は茶道をやってるん

です。茶道をしたいという学生さんもおられるそうで、もし可能ならば、うちの家内はいくらも出ますよと言われました。そういう場所さえあればの話ですけども。そうすると、またいろいろ仲間づくりもできるでしょうし、勉強以外の楽しみとか、卒業してもここに残りたいとか、そういうこともできるのではないかと思います。加賀市の施設を使えばいいのではないかと僕は思うんです。

福田部会長      なかなか今のはいい提案だというふうに思いますので、ぜひ久保出先生、看護学校のほうで採用していただいて、例えばお花とか、お茶とかいろいろあがると思うんです。

久保出委員      そういう部活動とかっていうのは、お金もかかるということもありまして、なかなか計画を立てるまでには至らなかったんですけども、上田先生からご助言をいただきまして、ボランティアで講師をしてくださるということに非常に喜びまして、ぜひ、9月から来ていただきたいなと思って、今、具体的なことを考えて、お茶だけではなくて、何か日本の文化とか、日本人の心とか、人と接することというところも合わせて、いろいろ教えていただく。単に医療の世界だけではなくて、一般の方々と接しさせていただく中で、いろんな人の見方とか、人との接し方を学べればいいのかと思って、良い機会ですので、ぜひお願いしたいと思っています。またこれ以外でも時々、北村聖先生に、学校にお越しいただいて講演会をしていただいたりとか、いろんな話をしていただいたりっていう機会を持ったりしています。本当に予算のことばかり申し上げて申し訳ございませんが、このへんも加味をしながら、いろんなかたちで学生の人づくり。看護職もそうなんですけど、それ以前の人をつくっていくというところに、力を割いていきたいなというふうに思ってます。ほかに活動として、ボランティア活動に参加させたりとか、奉仕活動をさせたりとか、いろんなかたちで、今は学校が主体的に学生を動かしている状況ですけども、これが積み重なって行って、学生の自主性、主体性が出た活動につながっていったらいいなと願っております。

福田部会長      ありがとうございます。いろんな人の講師を呼ぼうとすると、謝金が必要になってきますよね。いろんなことをやりますと、どうしても財政的なある程度の支援が必要になってくる。しかし、これはある程度といっても、年間大したことないと思うんです。ぜひ、加賀市のほうでお考えいただいて、これはやはり人をつくるんだと。加賀看護学校では、日本にない本当の優れた看護師を養成するんだという高い意識をお持ちいただいて、看護学校共々に協力していただいて、そこには惜しまずに財政投資をやっていただきたいというふうに、部会長としてお願い申し上げておきます。

久保出委員      それは学生だけではなくて、ぜひ、併設されている市民病院の職員とか、

山中温泉医療センターの方々でもご希望を募ってきていただいて、その場に交流するということも、1ついい手段になるのではないかと思います。ぜひ、学校の学生だけではなく、いろんな方々に来ていただくという場にもなったらいいなと願っております。

福田部会長      そうですね。学生さんのうちから、一般の方々との交流をするということも非常に重要でありまして、ある意味ではボランティアとして、在宅のケアを正式な看護師さんと一緒に、家庭訪問したりするというような経験というものも、ぜひ、学生さんとして積ませていただきたい。そうすることによって、それもアーリーエクスポージャーの中に入ると思うんですが、早くから自分の職業意識。自分のこれからやらなければならない職業の何たるかを理解していく上に、極めて重要な手助けになるだろうと思われま。ぜひ、そういうことを系統的に、あるいは積極的に単位として認めるとか。例えばボランティアとして、実際に在宅看護のほかのお医者さんや看護師さんと一緒に訪れて行ったというふうな経験を単位として認めるようにすれば、選択としての単位が認められていくというインセンティブもありますし、大きな力になっていくんじゃないなというふうに思われま。ほかに、ご意見を賜ることございますか。川崎委員、何でも結構でございます。こういうところ抜けてるじゃないかというところでも結構です。

川崎委員      もう少し事務局のほうに、具体的にお聞きしたいことがあるんですが、よろしいでしょうか。

働く環境の整備というところで、山中温泉医療センターが既婚率が80%で、20～30代が65%、50代が15%ぐらいで、ちょうど結婚、育児等、次は50代になると介護が入ってくる職員もぼちぼち出てきたりとかして、加賀市の住民の方が職員という背景なんです。その中でワークライフバランスというところで、離職率がとても少なくなったもんですから、ほかの自治体病院、法人の病院とかに聞きますと、一番多く聞いているのは90通り、大体20通りの勤務時間を作ってるって言うんです。1、2時間でもいいから働いてとか。それぐらいしないと、現場の看護師が確保できないというふうなことが実際に起きてまして、具体的には何かとても簡単にきれいごとのように聞こえるんですが、実際問題、本当に難しくて、これから本当に早めに考えていかないと確保というのは難しいのかなと思いますし、私たち病院も夜勤制限、夜勤免除、あと短時間とか、当然おります。その人たちも統合新病院に行きたいということを意思表示している者もおりますし、勤務のかたちを変えることなく移行できるとありがたいと思います。そういうことを思っの事務局のほうでは、何かお考えありましたらお聞かせいただきたいんですけど。

事務局            具体的な加賀市の統合新病院の体制につきましては、まだどうしてもこれからのタスクとなります。現行の加賀市の制度の中でも、当然、短時間勤務の制度でありますとか、あるいは介護の休暇であったり、いろいろ制度もございますし、今度の基本計画の中でも、3交代と2交代制の併用をにらんだハード的なことというのの中に入れておりますので、具体的な細かい対応というのが必要になってくると思います。そのへんにつきましては、これからご意見聞きながら作っていききたいなというふうに考えております。また、体制といたしましても、今度の新病院につきましては、地方公営企業法の全部適用ということで、そういう体制について、今までよりは作り易いかたちというのを目指しております。ちょっと具体的などころまでは申し上げられませんが、そういう整備といいますか、方向ではあるということだけ申し上げます。

福田部会長        西先生、いかがですか。

西委員            今の問題に関しては、加賀市民病院では正規短時間勤務の人もいませんし、夜間専従もまだ取り入れていません。今後、考えざるを得なくなってくるんだとは思ってます。その辺りで市との関係を考えていききたいなとは思っております。

福田部会長        ほかに何か。上田先生、ないでしょうか。

上田委員           今のことと関係なくてもいいですか。この前加賀看護学校と加賀市民病院は、すぐ側ですから出たんですけど、非常に移動しやすいんです。これがある一定期間、新病院と看護学校が別々になると移動の時間がかかる。実際に現場で働いて、あるいは勉強してるとか、教えている先生方等を含めて、このくらい、実は困難さが伴うんだよというようなことも1つお聞きしたほうがいいんじゃないかなと思うんです。そうでないと、実際の私たちが考える以上に時間的なロスとか、無駄な時間、いろんな障害が起こってくるのではないかと思います。

福田部会長        それは、最初からご指摘いただいた件であります。離れて建ってる時に最も懸念されることの1つですけども、できるだけ残債が少なくなった時点で、早く向こうに移るという大前提の下に、話は進んできたかと思われ。しかし、その間もある一定の期間はかかるわけですし、その間をどう凌ぐのかということについて、事務局のほうは、何かこれに対して腹案はございますでしょうか。

事務局            そちらにつきましては、今までの部会のほうでも、まだまだ1つの例示ということで、ほかの病院の例とか、ほかの看護学校の例を調べながら、より良い効果のあるといいますか、運営していく方法を皆さんと一緒に探していきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

福田部会長       この間もいろいろほかの病院を調べていただいたデータを上げていただきましたけども、確かに今、上田先生にご指摘いただいた点は、極めて無視できない重要な点でございます。事務局のほうはちょっと力を入れて、できるだけ学生、あるいは先生方に、時間的なロスやその途中での事故等が起こらないような、最大限の考慮をお願いしたいというふうに思います。今の件に関しては、久保出先生、何か。

久保出委員       前回までの会議の中でも、何回も申し上げました通り、学校としては一緒に行きたいというのが本音です。今ほど上田先生がおっしゃってくださった通り、それに伴う弊害というのが、かなりたくさん出てくるように思います。今のところは、具体的に1つ1つの事例について検討はしておりませんが、移動時間、移動のための手段、方法。それから、ドクター、あるいはナースが来てもらう講義をどのようにするのかとか、今までだったら5分程度で、すぐ移動できた、それができない。実習する時は、病院はもう新しいところですので、学生はそちらへ行く。今は学校の教員が学生指導を行ったり来たりをしながらしてる。それも不可能になる。もしその時に学生は移動しなさいとなると、その移動に対する保証はどういうようにするのかとか、様々なことが課題として上がってくるように思います。これについても学校のほうでも、もっときちんと細かくいろんな点について、メリット、デメリットを合わせて検討したいと思いますし、ほかの学校の様子もちょっと聞けたらいいなと思っています。ちなみに、富山市の市立病院と富山市立の看護学校は、今は併設がされてるんですけど、何年か前までは15分ぐらいの距離で、学校と病院が離れたところにあるという形態を取ってきて非常に苦労した。学生の安全確保、あるいは確認とか様々なところで問題点が生じたので、離れてあるというのは、考えられないというようなことも言ってました。そのへんも含めて、どのような弊害、危険性があるのかというのを学校としてもいろいろ吟味したいと思いますし、行政のほうでもそのへんをよくよくお考えいただきたいというふうに願っております。それともう1つは、学生募集に関しまして、学生募集で各広報をあげていますと「加賀市民病院は移動するんですね。」というのがあって「学校も行くんですね。」というのが続いて出てくる場合もほとんどです。その時に私は、行きませんとも言いませんけど、病院の移築、新設、それから学校のことについては検討中ですという回答をしてきているんですが、やはり加賀温泉の駅前にという良い条件のところに病院が行くということは、学生にとっては魅力ですし、その魅力をそのまま学校にも入ってもらえると非常にうれしいなと思います。そのへんもぜひ、お考えいただきたいと思います。お願いします。

福田部会長       それは最初から議論してきたことで、一番コアな部分であろうかと思いま

す。何遍も申し上げますが、残債の件がある程度解決できた場合は、事務局のほうもご努力いただいて、できるだけ早期に一緒になれるように、ご配慮のほどお願いいたしたいというふうに思います。これについての問題点を学校のほうでも洗い直していただいて、項目をあげていただいて、整理していただいて、学生のほうの問題、講師のほうの問題、それから輸送等の問題。いろいろ問題があげられるわけですが、そういう問題に対して、解決法をどのようにするのかとか、そういう暫定的な案でもあればちょっと出していただいて、次回でも、ここでご披露いただけたらというふうに思います。ちょっとご努力いただけますでしょうか。

久保出委員 次回まで、ある程度データを出ささせていただきたいと思います。

事務局 今日、お渡ししました概要版ですね。開いていただいて、上のほうの配置計画、交通計画というところがあると思うんですが、左側の配置計画の黒い四角の3つ目のところにその他とあります。これは看護師養成所の建設予定スペースを想定というふうなことで書いてあります。これは事務局として、残債の問題ももちろんありますが、鋭意努力をいたしまして、早い段階でこのところに建設をしたいという思いが、この1行に表れておりますので、ぜひご理解をいただければと思います。

福田部会長 ありがとうございます。いろんな意見をいただきましたけれども、ほかに委員の先生方、ご意見をいただくことはございませんでしょうか。まだ職場づくり、人づくり、ネットワークづくりで議論が足りない部分、こういうところが抜けてるじゃないかというようなところがございましたら、ご指摘願います。

久保出委員 人づくりのことにしまして、それぞれ学校だけ、病院だけというかたちで捉えがちですが、決してそうではなくて、病院と学校と協力しながらいうところを1つにあげていただきたいと思います。特に新人教育、あるいは離職していた人の再就職に関して、学校で使えるもの等々、いろいろあると思います。ぜひそういうものも含めて、学校と病院と共同して教育の充実を図っていただけたらいいなと考えております。

福田部会長 今の状態ではちょっと難しいかもしれませんが、学校のほうでリカレント教育というのをやるおつもりというのは、将来ございますでしょうか。

久保出委員 学校単独では、きっと無理かなと思いますが、臨床のほうと協力しながらは、やっていけると思います。

福田部会長 どれだけ学校に余力が出るかということですが、当然これは新しく看護師になられた初年次教育みたいなものですね。新しく看護師になられた方の教育、あるいは一旦、産休等、子育てで退かれた方をまた再度看護師としての立場に戻っていただくと。リカレント教育をやるというようなことを両

方ともシステムとして作っていかないと、とてもじゃないけど、これはものにならないというふうに思うので、ぜひこれは、ネットワークづくり、それから職場づくりというところに、そういうリカレント教育というようなところも重要視しておいていただきたいというふうに思います。それが結局は、これから看護師さんの数が足りなくなるということの1つの解決法というか、それに対する助けになる方法だろうというふうに思われます。それから先ほどから出てきた、できるだけ初年次から教育をする。そのためにはパートナーシップ・ナーシングシステムなんかはいい例だと思うんですが、できるだけ早い時期に一人前の看護師に成長されるように支援していくという支援体制。これは必要だと思います。それから先ほどの中で問題点があつて、厚労省のほうの話で、看護師さんの雑用といいますか、仕事量が非常に増えてるじゃないかということは、看護師本来の仕事以外、例えばいろんな入力をしたりというようなところがあったり、雑用が増えてきているということが1つあると思うので、そういうところに補助者を配置して、看護師が本来の看護師の仕事に専念できるような、専心できるような制度を市として新しく市民病院の中に構築していただけたらというふうに思われます。ほかに何か抜けてるところ、ないでしょうか。この際ですから、事務局に対しても、ご要望すべきことはしっかりと要望しておかれたほうが、これからの加賀市の医療の将来に関わる問題ですから、ぜひご遠慮なくおっしゃってください。

西委員            よろしいでしょうか。今、補助者の雇用というのが問題になってますが、当院では補助者は少ないです。その問題点としたら、正規職員になれないというのが結構、職員の中から聞かれていますので、今すぐとは言いませんが、やはり補助者をたくさん雇用するには、そういう待遇というのか、正規職員の補助者というの、夜間の補助者を備えるとまた加算が付くとか、いろんな診療報酬で出てきていますので、そのへんを含めるとやはり正規職員にしてほしいというのがあります。

福田部会長        非常に大切な指摘だと思いますので、ぜひまたご協力を。

事務局            今の西委員が言われたように、まずは1つに保険制度の中で補助者加算もあるということで、いわゆる有効性につきましては、認められるところでございます。そちらのほうにも鑑みた上で、市のほうでも、また新しい市民病院の体制のことにつきましては考えていきたいと思ひますし、現状のことにつきましても、また人事等のほうに申し送りをしておくかたちになると思ひます。

福田部会長        今、加賀市民病院には病棟クラークというのは、どのぐらいおられるのでしょうか。

西委員            本当の病棟クラークという者はいません。医事課の病棟担当という者はい



ます。

福田部会長

なるほど。これはどちらかというと医師側の仕事の軽減ということになってくると思うんですけど、いろんな意味で、病棟クランクがおると、随分、全体のほかの仕事が減って、医師も看護師もそれぞれの職務に専心できるということがあろうかと思います。病棟クランクの件も、看護師に対する負荷の軽減にもつながってまいりますので、ぜひこのこともお考えいただきたいというふうに思います。事務局のほうから今の議論について、何かご意見等ございますでしょうか。

事務局

今まで出ましたお話の中で、実はこちらのほうで、次回の部会長とのお話といたしますか、お願いしておりましたが、奨学金のほうにつきましては、また室長が申し上げた通り、今年度の事業、できれば来年から早々に行いたいということで、奨学金等につきまして、具体的な論議というのも次回からお願いしたいと考えておりますので、よろしく願いをいたしたいと思います。

福田部会長

早速、事務局のほうで対応していただいている様子でありますけども、非常にうれしく思います。ほかにございますか。

川崎委員

先ほどいろんなところで、看護師の覚悟というところの前に、健全な経営というところがないと、人も雇えませんし、いい病院もできないと思います。2年毎に診療報酬が変わるということで、本当にどんどん、どんどん、変わってきてるので、その先取りというか、その情報をきちんと取って、何をしないといけないのかというところで、取れるところを取るというところをやっていないと、なかなか健全な経営というところにはいかないのかなと。いろんなお金がかかることばかりなので、病院は診療報酬しか収入源がないので、今、どんどん診療報酬がついてる補助加算もそうですし、医療事務もそうですし、いろんなところで加算が取れていますので、皆、一緒になって頑張って、健全な経営ができるような取り組みが、できればいいかなと思います。

福田部会長

これは病院経営の問題として、非常に重要なご指摘だと思うんですが、別の委員会、病院経営委員会だとかそういうところで、いろんな無駄を廃して収入を増やすというところで、考えなきゃならない部分というのはたくさんあると思うので、1つ1つを潰していくという努力が必要でありまして、そういうことの積み重ねが、結局は病院の収入増につながると。純益増につながるということだと思います。もう既に事務局のほうで、お考えだろうというふうに思われます。またよろしく願いいたします。ほかにございせんか。

上田委員

以前の議論で看護大学の話が出たと思います。別に決して看護大学にする必要はないので、看護学校をつくったら、ここの看護学校はこんなところで

素晴らしいんだというような、看護学校づくりをぜひやっていけたらと思います。

福田部会長      そのためにも講師。専任、それから非常勤を含めまして、講師にどれだけ良い先生を呼べるかということも、これは大きな教務上の問題だろうというふうに思うので、ぜひこの点からも、ご尽力されてると思います。尚、一層のご尽力をお願いしたいと。

久保出委員      努力してまいります。厚生労働省というか、東海北陸厚生局の調査を受けた中でも、講師陣に関しては何のクレームもございませんので、それなりの成果は上がっているのではないかと自負しております。

福田部会長      他によろしゅうございますか。一応、今日の議論はここで止めさせていただきます。活発な議論をどうもありがとうございました。事務局のほうにバトタッチしたいと思います。今日はどうもありがとうございました。

#### 事務連絡

- ・ 次回の看護師養成部会は、10月中旬を開催予定。
- ・ 日程調整表を配布したので、都合をお知らせいただきたい。尚、部会長の予定を優先して調整したい。
- ・ 今回の議事録案は、完成次第送付するので確認をお願いしたい。

以上